

学部：看護学部

学科：看護学科

役職：教授

氏名：堀金幸栄



最終学歴・学位等

最終学歴：北里大学大学院看護学研究科

学位：博士（看護学）

免許・資格：助産師、看護師、アドバンス助産師、社会教育主事任用資格、新生児蘇生法専門 A コース、

所属学会・その他

日本看護学教育学会会員(2005年～現在に至る)

日本助産学会会員(2010年～現在に至る)

日本新生児看護学会会員(2011年～現在に至る)

日本看護科学学会会員(2012年～現在に至る：第41回日本看護科学学会学術集会査読委員)

日本母性看護学会会員(2014年～現在に至る：第22回日本母性看護学会実行委員、2023年より学会誌編集委員・査読委員)

日本生殖看護学会会員(2015年～現在に至る)

日本家族看護学会会員(2015年～現在に至る)

日本小児保健協会会員(2015年～現在に至る)

国際医療福祉大学学会会員(2015年～2022年：学会誌論文査読委員)

日本母性衛生学会会員(2016年～現在に至る)

全国助産師教育協議会会員(2011年～現在に至る)

神奈川県母性衛生学会論文査読委員(2019年～2022年)

主な職歴

昭和60(1985)年4月～昭和61(1986)年3月

日本医科大学附属病院産科病棟(看護師)

昭和62(1987)年4月～平成5(1993)年3月

恩賜財団済生会神奈川県病院(助産師)

平成5(1993)年4月～平成7(1995)年2月

日本赤十字社医療センター(NICU助産師)

平成7(1995)年4月～平成14(2002)年9月

八十島マタニティークリニック(助産師)、横浜市南区保健センター(母子訪問指導員)

平成11(1999)年4月～平成14(2002)年9月

国立相模原看護専門学校(非常勤講師)、海老名看護専門学校(非常勤講師)、育生会看護専門学校(非常勤講師)

平成15(2003)年4月～平成20(2008)年3月

神奈川県立衛生看護専門学校(常勤専任教員)

平成22(2010)年4月～平成23(2011)年3月

日本赤十字看護大学看護学部(助手)

平成23(2011)5月～平成28(2016)年3月

国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科(講師)

平成 28 (2016) 年 4 月～令和 4 (2022) 年 3 月

国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科、同大学院(准教授)

令和 4 (2022) 年 4 月～現在に至る

上武大学看護学部 (教授)、渋川看護専門学校(非常勤講師)2024 年より兼任

担当授業科目 (2025 年度/令和 7 年度)

看護教育入門 (1 年前期、科目分担者)

母性看護学概論 (1 年後期、科目責任者)

リプロダクティブヘルス (2 年前期、科目責任者)

母性看護学援助論(2 年後期、科目責任者)

疾患の治療と看護Ⅷ (2 年後期、科目分担者)

看護と環境 (2 年後期、科目責任者)

母性看護学実習 (3 年前期、科目責任者)

先端医療と看護 (3 年後期、科目責任者)

看護研究 (4 年通年、科目分担者)

専門・研究領域

専門：母性看護学、助産学

研究領域：早産児のストレス、早産児自律神経系の解析、早産児の両親への育児支援、高齢妊産褥婦への育児支援、看護教育に関する研究など

主な論文・著作

論文

1. 永井睦子,堀金幸栄,池田瑞穂,目黒悟、カード構造化法による看護教員の授業リフレクションに関する研究、日本看護学教育学会誌 16(2) 27-34、2006 年.
2. 堀金幸栄、未熟児網膜症眼底検査における散瞳時の光環境が超早産児に及ぼす影響、慶應義塾大学 (修士論文)、2010 年.
3. 堀金幸栄,久保田由美,高橋麻希,竹井春香、A 地域周産期母子医療センターにおける散瞳剤を使用した早産児の瞳孔径が元に戻るまでの所要時間と副作用、日本赤十字看護大学紀要 (26) 99-107、2012 年.
4. 堀金幸栄、眼底検査を受ける早産児の散瞳時における光刺激に対する防音低照度カバーの効果、北里大学 (博士論文)、2015 年.

著作

1. エレン・F・オルシャンスキー：編著 高橋真理/グレンジャー知子:監訳、ウィメンズヘルスとウエルネスーライフスパンの視点からのアプローチ：第 10 章：女性のレジリエンス、p142-148 (全 291 頁)、翻訳共著者：高橋真理、グレンジャー知子、湯本敦子、永谷実穂、日置智華子、藤本薫、濱谷淑美、永田智子、鈴木紀子、堀金幸栄、佐々木裕子、増田美恵子、大田康江、高島えり子、ゆう書房、2017 年.
2. Sheryl M.Green,Benicio N.Frey,Eleanor Donegan,and Randi E. McCabe：監訳:高橋真理、妊娠中および産後の不安と抑うつのための認知行動療法、第 8 章：行動活性化行動を変えることによって気分を改善する、p100-110(全 167 頁)、翻訳共著者：高橋真理、永田智子、佐藤洋輔、永谷実穂、青柳優子、田幡純子、中井妙子、植竹貴子、堀金幸栄、日置智華子、藤本薫、飯島亜樹、川村紀子、大田康江、サイオ出版、2022 年.

【文部科学省科学研究費：研究代表者のみ】

1. 2010-2010 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業 研究活動スタート支援「散瞳時の光環境が超早産児に及ぼす影響-ストレス行動評価による分析-」

2. 2011-2013 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「光環境が早産児に与える影響－唾液分析・早産児行動評価・心拍変動解析を通して－
3. 2014-2018 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「両親の声かけに対する極低出生体重児の自律神経系反応の理解を促す介入効果」
4. 2017-2021 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「早産児の自律神経系反応を活用した愛着を促す家族介入プログラムの開発」
5. 2021-2024 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「早産児にとって心地の良いかわりを促すことによる対児感情の変化」